

大学野球部員のキャリア成熟と部活動経験の関係 —個人的および組織的な経験に着目して—

福元 孝太郎

進路選択に対する個人の準備状況や取り組み姿勢を「キャリア成熟」という。その水準を大学に高めておくことは、すべての大学生にとって重要な課題である。しかし、学生アスリートは時間的な制約等から、キャリア成熟の水準を十分に高めないまま就職や進学等のキャリア選択に直面する場合がある。運動部活動における具体的な経験とキャリア成熟の関係性を検討した研究や、中高大のどの時期における経験が大学期のキャリア成熟に影響を及ぼしているのかについても、十分な検討はなされていない。先行研究より、学生アスリートの日々の練習や部活動での経験を通してライフスキルの獲得が期待され、ライフスキルの獲得によりキャリア成熟が促進されることが明らかになっている。今後、学生アスリートの競技生活充実とキャリア成熟の獲得レベルを高める教育支援を充実させていくためには、具体的にどのような経験がキャリア成熟に影響を与えるのか同定する必要がある。

本研究では、大学野球部員を対象に、キャリア成熟と部活動経験の関係について、個人的および組織的経験、学年や運動部活動へのコミットメントの程度、チーム内の立場、日誌習慣の程度から比較・検討をし、効果的なキャリア教育プログラム編成のための根拠となる知見を得ることを目的とした。

研究の方法としては、キャリア成熟の獲得レベルを測るため、坂柳（1991）の人生キャリア成熟尺度を採用した。運動部活動経験における組織的側面を竹村ほか（2013）のスポーツチームイメージ評価尺度、個人的側面を島本・石井（2008）の運動部活動評価尺度を用い、中高大のそれぞれの時期の経験を質問した。筑波大学と交流のある10大学の野球部員を対象にWebアンケート方式による質問紙調査を行い、316の有効回答を得た。

キャリア成熟と各時期の組織的および個人的経験の相関分析の結果、キャリア成熟の間で有意な相関の認められたのは、組織的経験よりも個人的経験であった。また、個人的経験の中でも「努力忍耐」「挑戦達成」といった能動的なスポーツ経験が受動的なものより相対的には相関があり、中学・高校期よりも大学期の個人的経験の方が相関係数は大きかった。

また、重回帰分析で検討した結果、中学・高校・大学期を通して個人的経験における「努力忍耐」経験が、大学期においては、「自己開示」「挑戦達成」「努力忍耐」経験に当てはまる能動的なスポーツ経験が大学期のキャリア成熟に影響を与える可能性のあることが示された。キャリア成熟の獲得レベルを高める要因として、中学期から大学期を通して厳しい練習も最後まで手を抜かず全力でやり抜くような経験が重要であり、大学期においては特に自ら主体的に行う個人的経験をいかに積むかが、キャリア成熟の促進に重要である。

(指導教員 歳森 敦)